

ベトナムにおける沿岸保護のためのマングローブに基づく介入: 教訓と経験の共有

グエン・トゥイ・ミー・リン

この発表では、マングローブの面積と分布、マングローブ管理に関する国の政策、沿岸地域の自然リスクと災害に関するベトナムの状況を概観します。提示されたマングローブに基づく介入は、主に次の3つの解決策のグループに従ってアプローチされています：i) マングローブの持続可能な管理、保護、およびガバナンスの強化、ii) 沿岸のマングローブの保護機能の回復の強化、iii) マングローブの近くに住んでいる、またはマングローブに依存している沿岸の人々の生計および自然災害防止の支援。そのため、マングローブをベースにした沿岸保護のための具体的なモデルや取り組みが共有されます。例えば、コミュニティベースの持続可能なマングローブ管理モデルや共同管理モデル、波浪を軽減し、干潟の堆積を促進し、自然再生を支援するための沿岸保護構造、深刻な侵食地域における沿岸マングローブの回復などが挙げられます。気候変動への適応・緩和を目的としたマングローブの再生・復元プログラム、マングローブに依存する沿岸部の人々の生活支援や自然災害防止に関するプロジェクト（GCF、UN-REDD、CARE などのプロジェクト）。さらに優れた成果に加えて、モデルから得られた教訓や実践的な経験を把握することで、他国との議論を活性化します。

グエン・トゥイ・ミー・リン (Nguyen Thuy My Linh)

ベトナム森林科学アカデミー (VAFS) 森林生態・環境研究所 (RIFEE)

2010年よりVAFSに勤務。主な研究テーマは、持続可能な森林管理、森林景観の再生 (FLR) と自然に基づく解決策 (NbS)、森林環境サービスの評価、LULUCF セクターにおける森林炭素計算と GHG 排出量インベントリ、環境・社会影響評価。現在は、VAFS と森林総合研究所の共同研究「ベトナムにおける防災・減災のための森林機能強化技術の開発」のマングローブ分野を担当している。